



TITLE:

京大広報 No. 188

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 188. 京大広報 1979, 188: 1059-1068

ISSUE DATE:

1979-12-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209498>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 188

京都大学広報委員会



豊長類研究所・心理研究部門でのチンパンジーを使った図形言語の習得実験—関連記事本文8ページ

目次

本学構内交通規制の実施.....	2	〈紹介〉 チンパンジーの行動研究	
共通第1次学力試験の実施計画.....	6	—図形言語の習得—.....	8
附属図書館創立80周年を迎える.....	6	〈随想〉 10年一昔.....	9
外国人留学生懇親会.....	7	訃報・日誌.....	10
		名誉教授 小田良平.....	9

＜大学の動き＞

本学構内交通規制の実施

京都大学安全委員会は、学内交通問題について本年3月28日、総長に対し「京都大学吉田地区構内における歩行者の安全確保について」を提案した。これについて、かねてから要項制定の準備をすすめてきたが、12月4日、「京都大学構内交通規制要項」が制定され、昭和55年1月16日を期して構内交通規制が実施されることになった。

この要項制定のもととなった安全委員会の提案の趣旨は、同委員会が昭和49年4月15日提案した二段階にわたる規制のうち、既に第1段階として実施されている速度制限（構内速度20キロメートル）、歩行者専用道路 および 駐車場等のライン引きによる標示のみでは構内の増加する自動車に対応できなくなり、今回、第2段階の措置の一つとして、構内に乗り入れ駐車する者に対し駐車許可証を交付し、構内から違反車両を無くして、歩行者の安全確保と教育研究の場にふさわしい環境を保持しようとするものである。

今回、制定された交通規制要項の概要は次のとおりである。

1 規制の対象となる構内（要項第1）

本部、西部、北部、教養部、医学部、薬学部、東南アジア研究センターおよび人文科学研究所の各構内とする。

なお、病院（東部、西部）構内については、病院の特殊性と既に規制を実施している等を考慮して、今回の規制対象から除外した。

2 駐車許可証について（要項第3、第4）

前記の各構内に自動車（自動二輪車を除く）を駐車しようとする者は、駐車許可証の交付を受け、駐車中は自動車の前面の外部から見やすい箇所に掲げることとしている。この駐車許可証は、各部局で次の4種（A～D）を交付する。

- (1) 駐車許可証 (A) 職員用
- (2) " (B) 学生用
- (3) " (C) 本学関係者等用
- (4) " (D) 臨時入構者用(当日限り)

なお、入構時、守衛所にて駐車許可証のチェックを行なわないので、タクシー、郵便車のほか、一般の自動車も自由に入構できるが、い



ずれも一時停車（一定場所に1時間程度の駐停車）に限るものである。

したがって、臨時の用務で構内に駐車する場合は、駐車許可証(D)の交付を受けなければならない。

3 駐車許可証に係る関連規定

要項には、駐車許可証の貸与等の禁止（要項第5）、駐車許可証の更新等（要項第6）、駐車許可証の返還（要項第7）、遵守事項（要項第8）、違反者に対する措置（要項第9）および緊急自動車の特例（要項第11）等を規定している。特に、駐車許可証のない自動車、または駐車禁止区域（例、消火栓の附近）に駐車している自動車に対しては、注意書を自動車の前面のガラスにワイパーではさみ警告し、悪質な者には学外撤去を命ずることとしている。また、自動車はこの要項が全面的に適用されるが、自動二輪車、原動機付自転車についても、駐車許可証の適用を除いて、構内の遵守事項のうち、速度制限や交通安全に関する事項について、本要項の適用を受けることになる。

また、本学官用車については、本要項に規定はないが、別途、「京都大学官用車両証」を掲示することとした。

4 規制実施機関（要項第10）

規制に係る業務は、構内所在の部局がその管理する区域について、当該部局自ら行なうものとする。また、事務局（管財課）においては、規制の実施について各部局の長から守衛の協力を求められたときは、その状況に応じ援助するほか、本要項の実施に関し必要な準備を行なうこととする。

以上が今回の本学構内交通規制の概要である

が、安全委員会では、将来の構想として、交通関係施設の整備、つまり、主要な道路を人と車の共用する主道（車道に相当）と安全確保のための歩行者専用の副道（歩道に相当）を設け、一部主道については車両の一方通行制度を導入するほか、駐車場の整備拡充等を提案している。これについては、各部局間の利害の調整や予算の目途がついた時点で順次実施できるよう検討することになる。また、全学的なコンセンサスを得て、最終的には入構車を無くする方向で、駐車許可証の交付は必要止むを得ない場合に制限するよう要望している。

明年1月16日から本規制要項の実施に当たり、駐車許可証の交付申請手続にはじまる規制の実施が円滑に行なわれるよう、関係各部局のご協力と教職員・学生各位および本学関係者のご理解を切にお願いする次第である。

◎用紙の配付、交付申請等について

- (1) 駐車許可証交付申請書および駐車許可証は、各部局（規制の対象構内以外の部局を含む）に所要枚数を12月中旬に配付する予定である。



- (2) 違反車に対する注意書については、規制の対象構内の各部局に規制実施時期までに配付する予定である。
- (3) 規制の実施に関する掲示板は、管財課において自動車が入出構する各門の守衛所附近に設置する。
- (4) 自動車で通勤または通学等をする者は実施時期の1月16日までに、それぞれの所属部局または在籍部局の事務掛で駐車許可証の交付申請手続きを取り、駐車許可証の交付を受けること。

（事務局経理部管財課）

京 都 大 学 構 内 交 通 規 制 要 項

（昭和54年12月4日総長裁定制定）

（趣旨）

第1 この要項は、京都大学構内（別表に掲げるものに限る。以下「構内」という。）における歩行者の安全確保、騒音の防止等を図るため、自動車（道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第2条第2項に規定する自動車をいう。以下同じ。）等の交通に関し必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2 この要項において「部局」とは、各学部、教養部、各研究所、附属図書館、医学部附属病院、農学部附属農場、農学部附属演習林、ヘリオトロン核融合研究センター、放射性同位元素総合センター、環境保全センター、情報処理教育センター、放射線生物研究センター、大型計算機センター、東南アジア研究センター、事務局、学生部、保健管理センター、体育指導センター及び医療技術短期大学部をいう。

（駐車許可証）

第3 構内に、自動車（自動二輪車を除く。以下第3項、第4、第6及び第7において同じ。）を駐車しようとする者は、駐車許可証の交付を受けなければならない。

2 前項の駐車許可証の交付は、部局の長（医療技術短期大学部にあつては、主事。以下同じ。）が行うものとする。

3 構内に駐車中は、駐車許可証を自動車の前面の外部から見やすい箇所に掲げておくものとする。

（駐車許可証の種類等）

第4 第3の駐車許可証の種類、交付申請の資格及び手続等は、次表のとおりとする。

種 類	交 付 申 請 資 格	交付申請先	交付申請の際提出及び提示すべき書類	有 効 期 間
駐 車 許 可 証 (A) (別紙第2号様式)	本学職員のうち、次の各号の1に該当する者 1 構内所在の部局に所属し、かつ、特定の地域に在住する者 2 その他特別の事由のある者	所 属 部 局	(提出すべき書類) 京都大学構内 駐車許可証交 付申請書 (別紙第1号様式)	交付の日から 当該年度の末 日まで

駐 車 許 可 証 (B) (別紙第2号様式)	本学学生(研究生、聴講生等を含む。以下この表において同じ。)のうち、次の各号の1に該当する者 1 構内所在の学部・研究科に在籍し、かつ、特定の地域の登録自動車を所有する者 2 その他特別の事由のある者	在 籍 部 局	(提示すべき書類) 1 運転免許証 2 自動車検査証 3 必要な場合は、身分証	
駐 車 許 可 証 (C) (別紙第2号様式)	本学職員及び学生以外の本学関係者及び本学が適当と認める業者等	当 該 用 務 に係る部局		当該用務に係る期間 ただし、1年を超えることができない。
駐 車 許 可 証 (D) (別紙第3号様式)	臨時の用務のため構内に駐車することを必要とする者	守衛所又は 当該用務に係る部局	(提示すべき書類) 運転免許証	当 日 限 り

(駐車許可証の貸与等の禁止)

第5 駐車許可証は、他人に貸与若しくは譲渡し、又は記載事項を書き換えてはならない。

(駐車許可証の更新等)

第6 駐車許可証の交付を受けた者は、次の各号の1に該当する場合で、引き続き構内に自動車の駐車を必要とするときは、交付申請の際の手續に準じて駐車許可証の更新又は再交付の申請を行うものとする。

- (1) 駐車許可証の有効期間が満了する場合
- (2) 所属部局又は在籍部局に異動があつた場合
- (3) 自動車の更新又は自動車登録番号の変更があつた場合
- (4) 駐車許可証を紛失し、又は著しく汚損した場合

(駐車許可証の返還)

第7 駐車許可証の交付を受けた者は、自動車により入構する事由のなくなつたとき、第4に規定する駐車許可証の交付申請資格を欠くに至つたとき、又は駐車許可証の更新若しくは再交付を受けたときは、速やかに、不要となつた駐車許可証を当該交付を受けた部局(駐車許可証(D)にあつては、交付を受けた守衛所又は部局)に返還しなければならない。

(遵守事項)

第8 構内において自動車(原動機付自転車を含む。以下第2号、次項、第9及び第10において同じ。)を運転する者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 歩行者の安全を第一とし、構内に設置した道路標識及び道路標示に従うこと。
 - (2) 自動車の最高速度は、時速20キロメートルとすること。
 - (3) みだりに警告音を鳴らさないこと。ただし、危険を防止するためやむを得ないときは、この限りでない。
 - (4) 本学の行事、緊急事態の発生等のため、本学が臨時に規制を行うときは、これに従うこと。
- 2 前項各号に規定するもののほか、構内における交通の安全、自動車による危険の防止等に関し必要な事項については、道路交通関係法令の規定の例による。

(違反者に対する措置)

第9 不正の手段により駐車許可証の交付を受けた者及び第5の規定に違反した者に対しては、直ちに駐車許可証を返還させ、以後駐車許可証を交付しないものとする。

- 2 前項に規定するもののほか、この要項に違反した者に対しては、その態様により警告し、自動車の学外撤去を命じ、又は前項の措置を準用する。

(規制の実施)

第10 この要項による自動車の規制の実施は、当該構内に所在する部局の長が当該部局の用に供する国有財産の管理に関する事務を補助執行する区域について、それぞれ所属職員を指揮して行うものとする。

- 2 前項の部局の長は、同項に規定する規制の実施について、必要があるときは、経理部管財課を通じ守衛の協力を求めて行うことができる。

(緊急自動車の特例)

第11 緊急自動車については、この要項を適用しない。

(その他)

第12 この要項に定めるもののほか、この要項の実施に関し必要な事項は、総長が定める。

附 則

- 1 この要項は、昭和55年1月16日から実施する。
- 2 第4の表中「特定の地域」とあるのは、当分の間、京都府及び京都府に隣接する府県とする。

別 表

本部構内・西部構内・北部構内
教養部構内・医学部構内・薬学部構内
東南アジア研究センター構内・人文科学研究所構内

別紙第1号様式

京都大学構内駐車許可証交付申請書

昭和 年 月 日 提出

許可希望期限※	昭和 年 月 日			
申請者※	所属(在籍)局名			氏名
	住所			連絡先電話 — () —
車種※	乗用車(普・小・軽)	貨物車(バン・トラック)	その他	
車名・型式※				
自動車登録番号※				
申請理由※	1. 新規 2. 有効期間の満了 3. 所属(在籍)部局の異動 4. 自動車の更新、自動車登録番号の変更 5. 許可証の紛失・汚損			
	理由			
証明書等の照合	運転免許証		自動車検査証	
	身分証		前回の許可証	
許可証番号	職員 A —	学生 B —	本学関係者 C —	
有効期限	昭和 年 月 日			
(註記) 1. 申請者は、※欄に所要事項を記入の上、関係部局の窓口に提出して下さい。 2. 有効期間は、当該年度限りとする。ただし、本学の職員及び学生以外の者に対しては、1年以内とする。				

(日本工業規格B5)

別紙第2号様式(駐車許可証(A)から駐車許可証(C)まで)

(表面)

京都大学構内駐車許可証 ()			
番号 _____			
部局名		教室名	
自動車登録番号			
有効期限	昭和 年 月 日		
昭和 年 月 日 京都大学部局名 印			

(日本工業規格B6)

(裏面)

注 意 事 項
1. 入構中は、本証の表面を運転席前面の外部から識別できる位置に掲示すること。
2. 歩道や駐車禁止表示区域の自動車の通行に支障をきたす場所には駐車しないこと。
3. 違反車には、注意書を車の前面ガラスにワイパーではさみ警告する。

別紙第3号様式(駐車許可証(D))

(表面)

臨時
京都大学構内駐車許可証 (D)
番号 _____
この車は 月 日に限り構内の駐車を許可する。
昭和 年 月 日
京都大学部局名 印

(日本工業規格B6)

(裏面)

注 意 事 項
1. 入構中は、本証の表面を運転席前面の外部から識別できる位置に掲示すること。
2. 歩道や駐車禁止表示区域の自動車の通行に支障をきたす場所には駐車しないこと。
3. 違反車には、注意書を車の前面ガラスにワイパーではさみ警告する。
4. 出構時には、交付を受けた守衛所又は部局に返却すること。

共通第1次学力試験の実施計画

昭和54年度から、国公立大学の入学者選抜は、共通第1次学力試験を取入れた新しい入学者選抜方法により行なわれているが、昭和55年度の共通第1次学力試験については、昭和55年1月12日、13日の両日にわたって実施が予定されている。

本学においても、4月来、共通第1次学力試験実施委員会および共通第1次学力試験連絡協議会を数次にわたり開催し、実施の準備を進めているところである。

協力を受ける公立大学は京都府立医科大学で昨年度と同様である。

概要は、次のとおりである。

1 試験日時

1月12日(土)	国 語	(12:00~13:40)
	理 科	(14:30~16:30)
1月13日(日)	社 会	(9:00~11:00)
	数 学	(12:20~14:00)
	外国語	(14:50~16:30)

2 試験場

第1試験場	北部構内
第2試験場	医学部・薬学部構内
第3試験場	本部・教養部構内
第4試験場	京都府立医科大学

3 志願状況

(試験場)	(志願者数)	(男)	(女)
第1試験場	1,150人	891人	259人
第2試験場	750	658	92
第3試験場	4,679	3,919	760
第4試験場	300	215	85
計	6,879	5,683	1,196

なお、第3試験場には、身体に障害を有する者で受験上特別の措置を要するもの7名が含まれている。このうち、5名は文字による解答を希望するもので、別室受験の措置が必要である。

4 追 試 験

昭和55年度は、追試験会場が近畿地区で1会場となったことから、近畿地区では神戸大学において実施が予定されている。

附属図書館創立80周年を迎える

京都大学附属図書館は、去る12月11日、その創立80周年記念式典を京大会館で行なった。明治30年6月18日京都大学創設とともに図書業務を開始していたが、閲覧室が竣工し閲覧業務を始めた明治32年12月11日を創立の日としている。

併せて、附属図書館一階会議室において、明治以前の貴重書および最近の二次資料の記念展示を行なった。

京都大学附属図書館は、国立大学の附属図書館として、東京大学のそれに次ぐ全国二番目のものであり、創立にあたっては「西日本の国立図書館」としての気概をもって始められたものであった。当初は全学図書の受入・整理はもっぱら附属図書館で行なわれたが、各部局の充実とともに、その一部は各部局図書室に移されたものの、なお多くの部分は附属図書館でなされている。しかし、全学の総合目録は附属図書館に収められており、全学の図書業務の要めとなっている。

全学共用図書、全領域の基本図書、学際研究の図書などのほか、奈良朝以来明治に至る貴重な文



献資料巻物版木などを蔵している。近時はさらに世界の図書のIndexなどをそろえるなど、いわゆる二次資料の充実がはかられている。さらに機械化に力を注ぎ、図書や文献の所在探索のための大型コンピューターを利用した方法の開発を進めるなど、21世紀の図書館をめざしている。

一方学習図書館として、創立当初は蔵書5万冊余りであったが、現在では約370万冊を数え、附属図書館のほか、部局などに計55の図書室を持っている。附属図書館では、年間延べ35万人の学生の利用がみられ、開館時間も今では午後9時までとなっており、つねに満席に近い利用をうけてい

る。

記念式典は、まず林 良平館長より、附属図書館の80年の沿革、図書・機能などをふり振り返りつつ、1980年代にむかって、さらに全学的な結集と他大学図書館との相互協力をすすめる旨の決意が示された。次いで岡本道雄総長より、学術審議会の学術情報システムについての中間答申案に示されているように、今や図書館は情報の媒介者として、より高次の責務を果すべきものであり今後の一層の発展を期待する旨の式辞があり、併せて、全学ネットワークによる図書の所在情報の探索システムおよびいわゆる情報検索の学内システムについて調査検討するため、本学に学術情報問題調査検討委員会を設置した旨語られた。さらに来賓

の文部省学術国際局長篠沢公平氏より祝辞があり、同局長は、京都大学事務局長在任当時の回顧をまじえつつ、将来の発展特に岡本総長の語られた調査検討するための委員会の設置のことにについて京大の今後の努力に強い期待を示された。ほかに、大阪大学附属図書館長山田信夫氏から友隣大学の立場から相互相たずさえて発展しようとの祝辞があり、また戦後間もない昭和24年から32年まで館長をつとめられ、その充実に尽力された泉井久之助元館長からは、附属図書館の重要性を、体験談をまじえながら語られた。

同時に、京都大学附属図書館にふさわしい学問的雰囲気の高い新しい建築が望まれることが、式辞、祝辞の述べられる間に、おのずと語られた。

外国人留学生懇親会

本年度の総長招待による外国人留学生懇親会が、12月3日（月）午後6時から、左京区松ヶ崎の「かんばー京都」で教職員、留学生等約330名が出席して開催された。

この懇親会は、昭和36年以来毎年引き続き開催されてきており、遠く自国を離れ、本学に在学している留学生が一堂に会し、日頃の研究生活を離れて本学の総長、各学部長をはじめとする多数の教職員等と、また留学生相互が国籍を越えて懇談し、理解を深めるための機会として、学生部が実施してきているものである。

今回は特に、平生留学生が物心共にお世話になっている関係者多数を招き、参加していただいた。本年は、日中国交回復後はじめての懇親会であり、中国留学生の参加も多かった。



この日の懇親会は、岡本道雄総長の「その土地に咲く花が最も生々として美しいといわれる。皆さんは、この国のより多くの人たちと接し、日本とは何か、京都とは何か、京都大学とは何かを十分理解してほしい」との挨拶にはじまり、それぞれ各国のお国自慢が披露されるなど、なごやかな雰囲気のうちに、午後8時30分すぎ閉会した。

本学への留学生の現況は、次のとおりである。

地域別

54. 10. 1 現在

地域	区分	学部学生	大学院学生	研修員等 研究生	計
アジア		23	59	59	141
中近東			6	4	10
アフリカ			4	2	6
オセアニア			1	3	4
北米			2	20	22
中南米			3	2	5
ヨーロッパ			7	33	40
計		23	82	123	228

専攻分野別

54. 10. 1 現在

地 域	区 分	文 学 部 系 研 修 員 等	理 学 部 系 研 修 員 等	研 究 所	計
ア	ジ	36	105		141
中	近 東	1	9		10
ア	フ リ カ	1	5		6
オ	セ ア ニ ア	1	3		4
北	米	19	3		22
中	南 米	1	4		5
ヨ	ー ロ ッ パ	17	18	5	40
計		76	147	5	228

＜ 紹 介 ＞

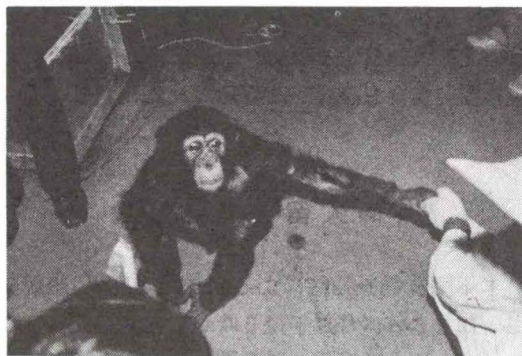
チンパンジーの行動研究

— 図形言語の習得 —

霊長類研究所が開設されて2年後の1969年に、心理研究部門が設置された。当部門では環境の要因を操作することによって、霊長類の個体の行動特性を明らかにする目的のために、主としてニホンザルを用いた知覚や学習行動に関する広汎な研究が行なわれてきた。とくに、ヒト以外の霊長類を実験動物として使うことがきわめて困難な我が国においては、国の内外から参加する共同利用研究員の多数の方々と共に、実験的な行動研究の発展に独自の役割を果たしていると考えられる。

最近、人間と比較しうる類人猿の高次な知的機能を解析する研究プロジェクトの一環として、チンパンジーの図形言語の習得に関する実験が開始された。体系的に計画された類人猿の行動実験としては、我が国において最初のものである。昨年アフリカから運ばれてきた約3.5才になるチンパンジー3頭は、気候、食物、ホームケージ、訓練者など、多面的な環境の変化にも漸く馴れて、テスト室で毎日約1時間、図形言語を覚える学習訓練を受けている。

図形言語は、円、斜線、波形など9種類の単純な要素図形の組み合わせからつくられ、一つの図形パターンは1語を意味する。たとえば、○は手袋、□は靴である。現在、任意に選ばれた8個の物の名前（錠前、コップ、積木、紙など）と5個の色名（赤、緑、青、黄、黒）を覚え、5個の名前と5色の組み合わせによって、物を記述することができる。表紙写真のように小窓に赤いボールが呈示された場合、チンパンジーは、キーボー



ド上の図形パターン◇（ボール）と◇（赤い色）の2個のキーを押して、頭上のプロジェクター上に“赤いボール”（◇◇）と答える。

正しい答えには、報酬（干しぶどう1粒など）が与えられる。キーボード、プロジェクター、報酬の呈示などの操作はミニコンピューターで統制され、チンパンジーのあらゆるキー押し反応が記録されているので、単なる学習成績だけでなく、誤り反応や反応時間から、どの色の間で、あるいはどの語（図形パターン）の間で混同が起きやすいかなどの分析が可能である。

同様の研究は、米国においてすでに8年も前から始められているが、それらの訓練は食物などの要求文によって達成された。我々の場合のように、物の名を記述することから始めて成功した例はこれまでにない。このプロジェクトは、神経生理、情報工学、言語学の分野の研究者との共同研究であり、このような言語的行動に関与する脳内機構についての新しい研究が着手されると同時に、一方ではより複雑な文の形態を導入することによって、人間の言語行動との本質的な相違についても、やがて明らかになるかもしれない。

（霊長類研究所）

訃 報

須原 英夫（農学部図書掛長）

12月4日逝去，47歳。昭和31年工学部勤務。昭和42年
附属図書館整理課受入掛長，同47年薬学部図書掛長，同
50年数理解析研究所図書掛長を経て同53年農学部図書掛

長に就任。昭和51年本学永年勤続者表彰（20年勤続）。

東中 秀雄（本学名誉教授・理学博士）

12月9日逝去，73歳。本学理学部卒。昭和25年本学分
校（現 教養部）教授就任，同45年停年退官。専門は物
理地質学。

日 誌

（1979年11月1日～30日）

11月5日 発明審議委員会

6日 評議会

9日 人文科学研究所創立50周年記念式および同記
念行事—展観ならびに講演会—

// タイ国 Kasetsart 大学 副学長 Sutharm
Areekul 氏および同大学プロジェクト副コ
ーディネーター Prachak Charoen 氏来学，
総長および関係教官と懇談

12日 附属図書館商議会

13日 放射性同位元素等管理委員会

// 組換えDNA実験安全委員会

14日 同和問題委員会

16日 食糧科学研究所講演会

// アメリカ合衆国 Cold Spring Harbor 研究
所長 James D. Watson 氏来学，総長およ
び関係教官と懇談

// 連合王国 London 大学教授 Paul M.
Thompson 氏人文科学研究所を訪問，関係

教官と懇談

17日～18日 総長候補者の選挙

18日 評議会

20日 評議会

// 大学院審議会

21日 国際交流委員会

23日 アメリカ合衆国 Chicago 大学総長 Hanna
H. Gray 氏来学，総長および関係教官と懇
談

26日 中華人民共和国中国原子力関係専門家代表団
団長（中国農業科学院原子力研究所長）徐
冠仁氏外6名来学，関係教官と懇談および施
設見学

27日 建築委員会

// 安全委員会

28日 原子エネルギー研究所公開講演会

29日 学位授与式

30日 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会